

# 書 評

アトリエエムブックレット3  
三木 啓子 著  
セクハラ・パワハラ  
その現状と防止対策

定価・6000円十税

職場で起きるさまざまなハラスメントの防止に取り組んできた著者によるセクハラ、パワハラ対策のパンフレットです。何がパワハラ、セクハラにあたるのかについての要点や相談を受けた際の対応例や窓口の充実など防止対策が簡潔にまとめられています。さらに巻末に「職業性ストレス簡易調査票」「パワハラ防止に関する規定例」が採録されており、職場での防止策の実践に役立つ内容です。

本書を読んで感じたのは、誰でもセクハラ、パワハラなど職場のハラスメントの当事者（被害者にも、加害者にも）になりうるということです。上司と部下、あるいは同僚同士など、職場の普段のコミュニケーションのなかにセクハラやパワハラにつながる言動が潜んでいると感じました。

また、「自分は関係ない」と思っている、実は知らない間に加害者になっていたり、同僚が被害に悩んでいるかも知れません。みんなが働きつづけられる職場づくりの実践のために、職場や仲間の様子に普段から目を配ることの大切さを改めて感じました。とくに、以前ならとりたてて問題にされなかった言動



じました。

セクハラにしても、男性の上司から女性の部下へ（4年前の連合の調査では女性の4人に1人が被害を受けた経験があると回答）だけでなく、女性から男性へ、あるいは同性同士など、さまざまな事例があるようです。確かに、女性部の仲間から「職場で出産や結婚についてうるさく言ってくるのは年輩の女性」「男性の上司は問題にされることを恐れて何も言わない」という話を聞くこともあります。また、育休を取得する男性に対する上司や同僚からの非難や嫌がらせも重大な問題です。日本では、男性の育休取得率は依然として低いままです。

本書は、ハラスメントは個人の問題ではなく、「組織の問題」だと指摘しています。管理職が職場をきちんと把握しているか、労働組合がきちんと機能しているかにもかかっています。セクハラ、パワハラが起きるのは、日本の職場で労働者の地位が低いことを意味しています。セクハラ、パワハラ対策を通じて職場や労働組合の組織や運動を再点検することができると思います。

（評）K・K